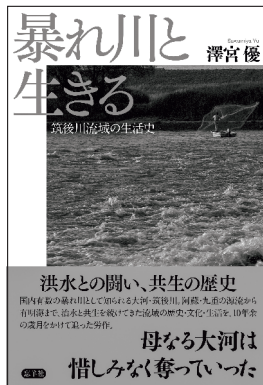


暴れ川と生きる 近刊

筑後川流域の生活史

澤宮 優 著



四六判並製・256ページ
ISBN978-4-907902-29-2

定価：1900円＋税

2022年6月刊

迫りくる豪雨の季節を前に——
気候変動時代の〈自然との共生〉を考える一冊です！

〈日本三大暴れ川〉のひとつと言われる九州一の大川、筑後川。

近年も大水害に襲われ続けている流域の人びとに

10年以上の歳月をかけて取材し、地域の文化や

川との闘いの歴史、そして治水の知恵を聞き取りました。

「筑後川は、阿蘇と九重を源流とする九州最大の河川である。大分県、熊本県、福岡県、佐賀県と四県にまたがり…利根川、吉野川とともに暴れ川の『三兄弟』とされている。だが近年筑後川ほど洪水を繰り返した川はない。流域の人々はこの川の猛威とともに歴史を刻んできた。その中で人々が水の脅威にどう対処して生きてきたかを知ることは、河川とともに生きる人々の暮らしを見つめなおすことでもある。…筑後川は、九州に限らず日本全国の河川とともに暮らす人々にとっても同じ問いを投げかけている。筑後川の抱える問題を掘り下げることは、河川と人間の関係のあり方を考えることにも繋がっている」(本書「プロローグ」より)

澤宮優(さわみや・ゆう)…ノンフィクション作家。1964年熊本県生まれ。スポーツから歴史、民俗、文学まで幅広く執筆。「巨人軍最強の捕手」(晶文社)で第14回ミズノスポーツライター賞優秀賞。著書に『イラストで見る昭和の消えた仕事図鑑』(角川ソフィア文庫)、『考古学エレジーの唄が聞こえる』(東海教育研究所)、『昭和の仕事』『集団就職』(ともに弦書房)、『戦国廃城紀行』(河出文庫)、『イップス』(KADOKAWA)、『世紀の落球 「戦犯」と呼ばれた男たちのその後』(中央公論新社・第3回野球文化学会賞)、『バッティングピッチャー』『昭和十八年幻の箱根駅伝』(ともに集英社文庫)など多数。

◎2018年地方出版文化賞受賞!

ジャパノロジスト

忘れられた人類学者 3刷

エンブリー夫妻が見た〈日本の村〉 田中一彦著

アメリカから来た若き人類学者とその妻が感動と共に記録した戦前日本の暮らし。

戦前唯一の日本農村研究書を著し、ベネディクトの『菊と刀』や戦後の占領政策にも多大な影響を及ぼした夫妻を描く本格的評伝



田中一彦(たなか・かずひこ)…1947年生まれ。新聞記者を経て、2011年から14年まで熊本県あさぎり町に単身移住し取材。共著に『日本を愛した人類学者』(本書の続編。忘羊社)、『食卓の向こう側』(西日本新聞社)、訳書に『須恵村』(J・エンブリー著、農文協)。

四六判並製・320ページ
ISBN978-4-907902-16-2
定価：2000円＋税

◎2020年地方出版文化賞受賞!

海の上の建築革命

近代の相克が生んだ超技師たちの未来都市〈軍艦島〉

中村享一著

あの時代に、誰がこんな建築を!?

日本最古の鉄筋コンクリートマンション群を擁する世界遺産〈軍艦島〉。

国内はおろか、巨匠コルヴュジエを

10年も遡る時代に生まれた

高層モダニズム建築誕生の謎に迫る。

中村享一(なかむら・きょういち)…1951年生まれ。長崎造船大学工学部建築学科卒。建築家。生まれ育った長崎や軍艦島の建築史を30年以上にわたって研究し、芸術工学の博士号を取得。

四六判上製・288ページ
ISBN978-4-907902-25-4
定価：2400円＋税



書店さまへ▶FAXなどで出版社へ直接ご注文ください。小社書籍は「地方・小出版流通センター」「東京官書普及」経由で全国の書店さまへ送返品可能です

番線	注文数	日付	お名前		
	冊		様	新刊(自然) 暴れ川と生きる ISBN978-4-907902-29-2	本体 1,900円＋税
	冊	既刊(人文)		忘れられた人類学者 ISBN978-4-907902-16-2	定価 2,000円＋税
	冊	既刊(建築)		海の上の建築革命 ISBN978-4-907902-25-4	定価 2,400円＋税



ぼうようしゃ
忘羊社

〒810-0074 福岡市中央区大手門1-7-18-901 ★書籍の詳細は<http://bouyousha.com>でご覧いただけます

▶TEL 092 (406) 2036 ▶FAX 092 (406) 2093 ▶メール bouyousha@gmail.com